



議員でつくる広報誌

むかわ議会だより



むかわひかり認定こども園運動会



穂別地区高齢者スポーツ大会



収穫の秋：稲刈り風景

2 9月定例会

4 ここが聞きたい!!一般質問Q & A

10 委員会レポート

12 議会広報研修会

No.25

2012. 10. 31 発行



むかわ町議会

☎054-8660 北海道勇払郡むかわ町美幸2丁目88番地



議会広報委員会

☎ 0145-42-2486 FAX 0145-42-4994

平成23年度

決算審査特別委員会を設置

(議長・監査委員を除く)

[9月定例会]

平成24年第3回町議会定例会は、9月12日、13日の二日間開催され、町長の行政報告の後、6人の一般質問、報告3件、認定8件、議案6件、意見書2件を審議しました。

また、平成23年度各会計決算に関する認定は、議長・監査委員を除く全議員14人で構成する決算審査特別委員会に付託され、閉会中の継続審査となりました。

行政報告

山口憲造町長

◆むかわ町地域防災計画等の改定状況について

道が6月28日に津波浸水予測図を公表し、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波として、本町では沿岸

最大水位7・6メートル、第一波到達時間50分(晴海地区)の想定のもと、鶴川地区市街地のほぼ全域まで及ぶ浸水予測が公表されました。

日頃からの災害への備えの大切さを啓発していくため、7月から町広報等にシリーズ化し掲載しています。

8月28日には、防災講演会を開催し126名が参加され、防災に関する関心の高さを改めて認識をいたしましたし、9月4日には汐見地区において、地震津波防災

訓練を実施、全体で130名の参加がありました。

訓練の目的の一つである、自分の命は自分で守るという意識の高揚が図れたことと、災害時に支援を要する方への協力体制が地域で構築されたことが成果として、今後も生かされると思っています。

今回の防災訓練における反省点及び課題等を整理し、今年度において職員の防災研究を実施し、防災対策の強化と充実を図り、来年度以降も継続して訓練を実施していく予定です。

講演会や防災訓練で得られた貴重な意見や教訓を津波ハザードマップ等に反映させ、年度内に作成、全戸配布し、防災会議での協議をとおして、地域防災計画の見直し、改定を行っていく予定です。

今後の防災対策として、今やるべきことと今できること、時間を要すること等の一定の判断をし、ハード・ソフト両面を重視しながら津波被害の軽減を図っていきたいと考えています。

◆中谷産業穂別工場について

事業が縮小されるということで、神奈川県小田原市にある本社に直接出向き、会社の考え方を聞き取りするとともに、穂別工場の維持継続について要望を出しました。

会社側からは社会情勢により一部生産ラインを止めて規模縮小して存続させるとの考えが示されました。また町としてはやむを得ず退社せざるを得ない方々に対し必要な支援に努めていく考えです。

◆水資源の保全に関する条例について

今年4月1日施行された本条例は、水資源保全地域の指定区域において、土地所有者が売買や賃貸などの

対価を伴う権利移動を行う3カ月前までに届け出が必要となるものです。本町では、旭岡、汐見1区、汐見共同井戸、穂別地区の稲里仁和、富内、福山、平丘、安住第1・安住第2の計11地区が、町で指定している給水地域であり本条例での指定提案を行っています。

今後、9月中旬に指定区域として決定されると、10月1日から条例が適用される予定となっています。

◆平成23年度むかわ町健全化判断比率に關して

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき議会に報告するものです。

- ・実質赤字比率は黒字
- ・連結実質赤字比率は黒字
- ・実質公債費比率19・5%
- ・将来負担比率69・2%

と監査委員の意見を付して報告がありました。

報告



汐見地区で開催された防災訓練

認定

◆平成23年度一般会計決算、国民健康保険特別会計決算、後期高齢者医療特別会計決算、老人保健特別会計決算、介護保険特別会計決算、上水道事業会計決算、下水道事業会計決算、病院事業会計決算に関する8件を決算審査特別委員会に付託し審査することになりました

議案

◆むかわ町防災会議条例の一部を改正する条例案

防災に関する諮問機関の機能を強化するために防災会議の委員会に学識経験者等を選任できる条例の改正をするものです。

◆むかわ町災害対策本部条例の一部を改正する条例案
穂別地区に地区災害対策本部を設置することを位置づけし明確化することにより本部と連携を密にし町の災害予防及び災害応急対策を講ずるものです。

質疑

北村修議員 本部の穂川地区が仮に大災害になった場合、独自に穂別地区で対応せざるを得なくなったときのことを詳しく伺いたい。

阿部博之総務企画課長 運営規定の詳細についてはこれから詰める予定です。

現状では町長が不在の場合には、既に代決、系統の規定があるので、これに準じた運営になると考えております。

各会計補正予算

◆一般会計

1億2千176万円追加

主な項目

◆穂別穂川線バス運行事業負担金等

1千366万円

◆愛誠会の授産施設「夢風船」を穂川地区ぽぽんた市場横に建設することに対する補助

5千900万円

質疑

佐藤守議員 授産施設とぽぽんた市場の管理組合との関わりは。

奥村誠治町民生活課課長 施設はパンを製造、販売するので、市場と連携、協力し、集客力を高める協議をしています。

◆エゾシカ対策の報償費を捕獲頭数1,600頭追加し2,500頭とする(1頭3千円)

480万円

質疑

大松紀美子議員 エゾシカの有害駆除2,500頭で十分ですか。

管崎治宏経済建設課主幹 昨年は、2,800頭の有害駆除数ですが1,500頭分の予算措置でした。

今年は昨年の駆除数を参考に2,500頭分の報償費を予算措置しています。

◆ししゃもふ化場移転を検討する調査費補助

1千381万円

◆プレミアム商品券発行補助

1千875万円

◆むかわ町国民健康保険特別会計
保険税還付金

43万円

◆むかわ町介護保険特別会計

平成23年度介護給付費の精算確定による。

622万円

採択された

意見書

◆森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書

全員賛成・可決

不採択となった

意見書

◆消費税増税の実施中止を求める意見書

【賛成討論】

大松紀美子議員 消費税増税法案実施までには約2年間あり、増税実施を中止すべきだと、むかわ町民の切なる声であると考え賛成します。

賛成2人、反対13人、否決

【反対討論】

佐藤守議員 少子高齢化が進むこと、社会保障と税の一体改革、特に目的税としてはつきりしていること、

経済状況を見て実施することを鑑みた場合、今回の意見書には反対します。



ぽぽんた市場駐車場

? ここが聞きたい!!

6人の議員から一般質問がありました。

いっぱん
質問

Q&A

Q

ふ化場の建設は

A

建設する方向で



三倉 英規
議員

三倉英規議員 シシヤモのふ化場建設については、資源管理型の漁業ということで反対するものではありませんが、建設についての考え方や、このふ化場については、シシヤモだけでなく、ほかのものも多目的にふ化出来るのか、ということも含めて伺います。

八木敏彦経済建設課主幹
現在のふ化場につきましては、昭和53年に建設し35年が経過しており、施設の老朽化や大雨時の構造上の問題などから、新設するか改修するか課題となっていたことから、昨年9月に胆振管内ししやも漁業振興協議

会の構成団体及び関係団体によるシシヤモふ化場検討委員会を立ち上げ、平成24年3月に開催した第2回検討委員会でも、シシヤモのふ化場を建設する方向で検討を進めることで合意しました。

シシヤモの資源増については、ふ化事業による資源増に対しての寄与が不明であり、ふ化事業を行うより河川の環境を保全し、親魚の河川への遡上を確保し、自然に任せたふ化のほうが資源増につながるの意見もあります。自然に任せただけでは災害によるふ化に大きな影響を及ぼすなどの被害も考えられることから

ら、災害に対しては人工的に資源の確保や補完することも大切なことであり、そういう観点からもふ化事業は必要だと考えており、シシヤモに関係する漁家、水産加工業者そして小売店、飲食店と多くの住民がかかわり経済効果は大きいものがあります。

また、洋光町にあった旧浄水場跡地南側の町有地に、鵠川漁業協同組合が鵠川本流の水利権を取得し、ふ化場を建設する方向で検討が進められており、今定例会において、鵠川の正常流量とふ化事業に必要な取水量の妥当性の調査費用として補正予算を提案しています。

三倉議員 昨年は、サケについてもシシヤモについても不漁だったことから厳しい経営の中にある漁業協同組合が、ふ化場を作ることに伴う維持管理費の負担はどのように考えていますか。

山口憲造町長 維持管理費については、太陽光発電の設置だとか、いろんなこと

を工夫しながらランニングコストを抑えることもできると考えています。

また、合併時に、水産振興基金として2億円を積み上げているので、有効に活用出来ると考えています。



現在のシシヤモふ化場（大原）



鵠川上流マコップ沢川に遡上した鮭の群（穂別）

Q 学校給食の実施時期は

A しかるべき時期示します



大松紀美子
議員

大松紀美子議員 むかわ町における学校給食のあり方を調査する学校給食検討調査会の一年間にわたる調査結果が出されました。検討調査会の答申について伺います。

木澤省司教育長 7月3日の教育委員会への答申は「早期に完全実施をすべきもの」との内容でした。その理由は、①食育基本法は、食生活の改善に重点が置かれ、学校給食も教育の一環として位置づけられている。②保護者、教職員等への調査からも、給食への期待感強い。

の実施に向けて検討をしていただきたい」との内容の意見書を提出しました。

大松議員 教育委員会の意見書を受けて、町長の見解について伺います。

山口憲造町長 具申を受けたのは8月28日なので、まだ内容を精査していません。今後の進め方を含め、検討精査をしていきます。

大松議員 今年度予算で鶴川中央小学校の建設基本設計と技術支援予算1,600万円が計上されています。合併時の新町建設計画の後期計画平成23年から27年までの計画の中には鶴川中央小学校校舎改築事業と穂別小学校の大規模改修事業が示されています。

これらに合わせて具体化を進めることがベストと考えますが。

山口町長 考え方はそれほど変わりません。穂別小学校の大規模改修については今後精査が必要です。

町民、議会が判断できる資料の作成を進め、鶴川中央小学校改築時を含め、しかるべき時期に示す考えです。

Q 消費税増税で、公的医療運営への影響は

A 試算できる状況にはありません

大松議員 多くの国民の反対の中、消費税増税法案が可決されました。

長引く不況で消費が冷え切る中、地域経済をさらに悪化させます。

増税は医療機関にも大きな影響を与えます。厚生病院、穂別診療所への影響額について伺います。

竹中ひろみ町民生活課主幹 控除対象外消費税が増加することが見込まれますが、影響額や対策については国として検討中で試算できる状況にはありません。

大松議員 全道で地域経済に与える影響額は1兆1、

Q 原発事故被災者支援の現状は

A 福島の子とも達への支援はこれからも継続します

大松議員 原発事故被災者支援の現状と今後について伺います。

田口博総務企画課主幹 昨年むかわ町に避難された方の総数は21世帯49名です。現在も5世帯12名が在住しています。

平成24年3月までに一定の成果が得られたと判断し平成23年度末で支援を終了しています。

福島の子どもたちの受け入れについては今後も継続します。



鶴川中央小学校稲刈り

Q 鷗川市街中央通りの活性化対策は

A 「まちなか居住」政策で活性化を図ります



中島 勲
議員

部開発を想定した新産業都市区域に指定され、都市計画道路の一つとして決定されたものです。

中央通りの衰退原因については、少子高齢化・人口減少・郊外型大型店舗の進出などにより、消費の町外流出が止まらない等が大きな原因と考えられます。

中央通りの成り立ちは明治初期に現在の中央通りができ、役場・駅・郵便局・学校・警察が新道沿いに集中的に設置され、大正、昭和の時代に経済活動が活発になり、商店街として東から西に栄えたと認識しています。

活性化対策として、町は現在、「まちなか居住」による市街地の活性化に向け、中央通り沿いに本年度から2カ年事業で子育て支援住宅の整備を行う計画です。

山口憲造町長 子育て支援住宅は公約であり、具体化する考えです。

事業費についても、郊外に建設するよりコストは高くなりますが、民間参入に

よるプロポーザルという公募型で設計等を進めています。

中央通りの一角で子育て支援住宅を建設し、中央通り活性化の一助に資すると考えています。また相乗効果も期待しています。

これを機に民間の方々の発想で、我々ができるものと民間の方々にやっていただけの等近々議論を進めていけるのではないかと

考えています。

中島議員 行政と関連があり公共性の強い社会福祉協議会・老人クラブ連合会等にも、施設移転等中央通り活性化に協力していただければ。

山口町長 中央通り整備は商店街の皆さんの考え方が優先されると思います。



鷗川市街中央通り

Q 太陽光発電の誘致について

A 積極的に誘致していません

中島議員 昨年の東日本大震災による福島原発の崩壊により、クリーンエネルギーとしての太陽光発電が脚光を浴びています。

クリーンな町のイメージアップ、固定資産税による歳入増など考えられますが、本町の太陽光発電誘致に対する考え方を伺います。

阿部博之総務企画課長 現在、民間の太陽光発電事業者の動きとしては正式に町に対し協議はありません。

現在、4社ほどが町内で5カ所を超える事業化の検討がなされ、手続き等に係る行政的な対応をしていますが、積極的な誘致活動は行っていないです。

財政的な効果を生み出すことにもなりますので企業からの相談、協力依頼については真摯に対応しています。

- ①中央通りを「新しい町の顔」と考えますが。
- ②中央通りと商店街との関係関係は。
- ③中央通りと命名した理由は。
- ④現在の中央通りの衰退の原因は。
- ⑤中央通りの成り立ちをどのように分析しているか。
- ⑥中央通りの活性化に必要な対策は。

八木敏彦経済建設課主幹

<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">A</h1>	<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">Q</h1>
<p>成長著しいメタセコイア（街路樹）の住民生活への影響は</p>	<p>落ち葉や根張りなどによる苦情が年々増加</p>



三上 純一
議員

三上純一議員 街路樹は癒しを含めて町の景観、あるいは町を印象づける大きな役割を果たしますが、反面維持管理次第ではその印象も変わったり、住民生活に大きな影響を及ぼします。街路樹の効用・選定や、害虫などの管理、町内会や商店街との連携について伺います。

為田雅弘経済建設課主幹 樹種については、プラタナス、ナナカマド、ハイマツ、ツツジ、化石の町のシンボルであるメタセコイアなどを植栽しています。

効用については、景観や緑陰の形成、交通安全の確

保など沿道における良好な公共空間を形成する役目を有していると考えています。

維持管理については、樹木の成長に伴い車両及び歩行者の安全や景観を考慮し、年2回の町道の草刈りに合わせて支障となる街路樹の剪定や、害虫の駆除等も状況に応じて実施しています。

また、地域との連携は鶴川地区は商店街維持管理に関する協定や、穂別地区においてはホッピー通り商店街と北海道が協定を結び、商工会へ引き継がれ維持管理をしています。

三上議員 1年で1m近く成長し、直径1m50cm、最

最終的には30〜40mの高さに成長するといわれるメタセコイアは、街路樹という概念を超えている。現状でも直径60cm級の大木になっているが、高さは把握されていますか。

阿部勉地域振興課主幹 街路樹メタセコイアは化石の里をテーマにした森と化石とロマンの里づくりの顔として、昭和63年道々のつ

かえ拡幅を契機として商店街の生き残りをかけた選択で取り組まれたものです。生育年数はこの事業を始めた昭和63年〜元年（第1期工事）、平成2〜3年（第2期工事）で現在に至っていますのでそれだけの年数が経過していることになり

ます。高さは平成19年度時点で10mで心止めしています。

三上議員 現状では民家や商店の屋根より高く、落ち葉による屋根の腐食や、根張りの拡大による歩道の損傷、配水管などへの影響が心配されますが。

阿部地域振興課主幹 道立林業試験場の調査では、住居に影響を与えるほどの根張りにはならないと説明を受けています。

三上議員 街路灯も妨げられているが剪定や管理に問題があるのでは。

阿部地域振興課主幹 暗い、信号機が見づらいという声もあります。

北海道に要請しながら適切な維持管理に努めていきます。

三上議員 現実にはさまざまな影響を受けているし、維持管理に問題がある。

現状を捉えるため、改めて住民の声を聞く必要があると考えますが。

山岡康伸総合支所長 沿線住民も一体となって整備を進め樹木の生長に伴いシンポジウムも実施してきましたが、住民から苦情も年々増えています。

樹の保存と住民生活を守る観点から時期、タイミングをとらえて議論していきます。



「進化の道」街路樹のメタセコイア

Q シカ柵の効果は

A 農業被害は軽減されていると考えます



野田 省一
議員

野田省一議員 シカ柵設置後は農林業への被害はどのように変化をしてきましたか。

今村繁吉農政課長 農業被害は、シカの移動経路が大きく変わり、シカの出没が少なくなり、群れでの移動が見られなくなつたなど聞き取っていますが、シカ柵設置後初めての収穫時期であり、今後の状況を見なければ比較はできませんが、効果が最大限に生かされ総体的に農業被害は軽減されていると考えています。

菅崎治宏経済建設課主幹 林業被害は、今年度の被害

野田議員 シカ対策の今後の対策方針について伺います。

菅崎経済建設課主幹 町の鳥獣被害防止計画により、今後も被害対策を実施してまいります。

また、23年度、有害駆除による胆振管内全体の捕獲数が約6,500頭でしたが、その内むかわ町での有害駆除の捕獲は約2,800頭で、管内の駆除の内43%がむかわ町の捕獲実績です。

捕獲数の底上げは地元猟友会の協力がなければ実施できず、今後も地元猟友会関係機関と連携した施策を進めてまいります。

Q 「進化の道」の歩道の早期修復を

A 北海道へ早期改善を要請

野田議員 進化の道の街路樹は他に類を見ない美しい街並みを形成し、来町者の賛美も多い風景であります

が、植樹枿が浮き出てしまっているところが多々あり、見た目にも歩行にも支障があり、住民から早期修復の声がありますが、北海道への要望など、その回答結果を含め、今後の対応、現状把握について伺います。

渋谷昌彦地域経済課長 進化の道は平成21年に土木現業所から今後の維持補修の計画が示され、車道のオー

バーレイ、縁石の取りかえ、歩道内の30センチ以内の根の除去、植樹枿の拡大、歩道の補修については、21年度1期工事区間の農協までの工事が完了しました。

その後23年度農協前から終点までの車道のオーバーレイのみ完成した後、今年度は実施されていません。町としても継続的に実施されるものと思っておりますが、北海道の財政的事情で未実施となっております。

残った歩道の補修を、来年度実施に向け商工会と連携し北海道に強く要望をしていきます。

富士隆久副町長 進化の道は、北海道の所管となり北海道がやらなければならぬ仕事ですが、道が財政的な事情によってできないということであれば、非常手段として町が代行してやるということも含めて、北海道と積極的な協議を進めて、早期に改善ができるような手当を講じます。

野田議員 他に類を見ない並木は、日々美しさを堪能させてくれ、私は町の顔となってきたと思っています



罠に追いつめられたシカ（旭岡）

が、例えば、観光資源として、街並みのフォトコンテスト等を実施する考えはありませんか。

新正之地域経済課主幹 北海道にはない並木でもあり、現在、インターネットのポータルサイトで穂別の四季の様変わりの写真を撮って発信する予定です。

また、フォトコンテスト的なものについては十分検討していく余地はあると思います。

A Q 住宅リフォーム助成制度を地域内経済循環の柱に

仕事おこしと雇用に恒久的な制度として活用する中で地域で役割が果たせるように



北村 修
議員

北村修議員 住宅リフォーム助成制度の活用で、「暮らしに安心を」と共に、事業を町の新たな仕事おこし、雇用対策として新たな産業振興になるものと期待されます。そのことは、行政が助成する事業を中心に地域内経済循環とした役割ができます。

そのため、①住宅リフォーム助成制度が広く活用できるように町内のどの建設業者で気軽に相談できる仕組みを。②また事業者が、これまでの公共事業とは違い、「ともに新たな町づくりへ」とした中で仕事をつくり出していくとした認識が共有できる仕組みに

すること。③新たな企業おこしにつなげる方策、支援を。④町の小さな事業者が安定的に仕事ができるように、また、そこで働く人々が適切な賃金が確保できるなどの仕組みづくりとして、中小企業基本条例や公契約制度の検討を。

山口義雄経済建設課参事 安心住宅リフォーム制度は、環境問題や高齢化の進行、災害などに直面する中で、木造住宅の耐震化、安全・安心で快適な住環境の創出、町内産業の活性化、及び町民の利便性の向上を図ることを目的としたものです。広報やウェブサイトで公表

し、町内業者の方には、事前説明会で利用及び申請方法など説明を行っています。

町内産業の活性化、さらには雇用の維持を図ってきたが、制度が軌道に乗るには時間が必要で、今後制度の普及に取り組みます。

山口憲造町長 言われるように究極はそこだと思うので制度です。窓口を商工会としたのも地元業者が地域に入って有効活用され、地域経済等を含めて効果が出ればとの思いからです。しかし、ハウスメーカーの町内の行動などもあり、活用されるのか不安もあり、建設業者だけでなく設備や電気など関連で連携し、組合のような中で実行できるようになればと願っています。課題や各地での経験も踏まえ、事業者の方と行政と連携して住民の窓口となり、地域経済等を含めて何とか有効に活用できるように適切な指導に努力をしています。

Q 地元木材活用事業の推進状況は

A 地域材利用推進研究会設立

北村議員 ①地域材利用推進方式を策定、町利用推進研究会の設立としてきましたが、その取り組み内容について伺います。②また、町民が地元木材を気軽に活用できるよう、地元木材の種類や活用方法をわかりやすいものに。③地元建設業者のかたにも理解をいただき、そこで相談ができる仕組みを。④中央小学校の改築にむけての検討状況と地元材活用で、木材のみならず木質繊維を活用した断熱材なども検討の対象と幅広ものに。

菅崎治宏経済建設課主幹 昨年、町・北海道・国等で森林づくり推進協議会を立ち上げ、3月に町と道で森林づくりに関する協定を締結。木材利用に関する協定ができ、これをもとにむかわ町地域材利用推進方針を

制定しました。その実現に向け、8月に町建設協会、広域森林組合とむかわ町で町地域材利用推進研究会を設立、今後研究会の議論、提言を踏まえて施策の展開をしていきます。

富士隆久副町長 研究会でカラマツに焦点をあてているが、集成材、製材としての課題が多く、建築材として活用できていないため、今後、地域の中でどう活用できるかを研究会で探っていきます。

提案の中央小学校の改築で地域材の活用と考えていたが、津波浸水予測図で中央小前まで浸水が予測されることから構造材として木材は難しくなり、断熱材としては地域材の活用はできると思っています。

Q 米軍移転訓練の恒常化は許されない

A 課題が生じた時に対応

北村議員 住民に不安を与えている、今年で5回目となる危険な米軍移転訓練が恒常化することの内容に対応を。

富士副町長 地方行政における是非は避けるが、訓練に伴う騒音等の課題が生じれば、関係機関に申し入れる等の対応は行います。



森林組合貯木場（穂別）

REPORT

委員会レポート

所管事務調査報告

総務文教常任委員会

調査事項

学校給食について

【調査の経過と報告】

学校給食の北海道における実施状況は、小学校での完全給食は1, 224校で97・1%、中学校は639校で96・7%、また、補食、ミルク給食を合わせると、99・5%となっている。胆振管内ではむかわ町の全学校がミルク給食で、それを除く全ての学校が完全給食となっている。全国においても98%と高い実施率になっている。

本町においては平成23年6月「むかわ町学校給食検討調査会」（以下「検討調査会」という。）が設置され、保護者、児童生徒及び教員を対象としてアンケート調査や研修会、近隣町の視察

等、幅広い調査を行い、慎重な審議を重ねて、本年7月に教育委員会に対し答申された。この答申内容をもとに教育委員会での審議が行われ、意見書としてまとめられ、8月28日、町長に対し検討調査会による報告書及び答申書とともに意見書が提出された。

意見書の内容は、完全給食の実施について早期の実現に向けて検討を求めるもので、その理由として、4つの点を上げている。

(1)子どもたちの「食」を取り巻く環境の大きな変化により学校給食の役割が大きく異なってきたおり、教育的効果が期待されていること。

(2)「食」について正しい知識と望ましい食習慣を身につけることが大切なことであり、学校給食は食育の生きた教材として位置づけられている。

(3)学校給食をとおして地域全体の食生活の改善への展

開が期待され、地元の農水産物を活用した地域に根ざした食育が推進される。

(4)「検討調査会」が実施したアンケート調査の結果に、食生活や栄養バランスへの関心の高さが表れていて、学校給食への期待と解される。

また、調理方式について、「検討調査会」によると本町の地理的要件、財政コストや将来の学校規模を考慮すると親子方式が低コストであり、鶴川地区の鶴川中央小学校、穂別地区の穂別小学校への併設が望ましいとされる。

道内における給食費は月額約4千円となっていて、保護者、教職員からも「適当・安い」とされている。一方、滞納についても社会問題になっていることから、きめ細かな納入対策を講じることが必要とされる。

以上が「検討調査会」における検討状況となっている。

調査事項

特色ある地域づくり事業の運用について

【調査の経過と報告】

特色ある地域づくり事業については、平成18年度、合併により誕生した新町において、旧町単位による2つの地域自治区が設置され、それぞれの地区に根ざした事業の継承や創造性を発揮

し、地域の特色を活かすことを目的として事業実施要綱、補助金交付要綱の整備が行われ事業が開始された。また、平成19年度には、地域協議会を経て、新たに安全・安心のまちづくり、主に町内会、自治会が行う事業で、自主防災体制の構築をはじめとする4つの事業の枠組みで運用されている。事業は一般事業、特別事業の2つがあり、住民からの公募による一般事業は、



花園2丁目町内会の花壇
(特色ある地域づくり事業：一般事業公募)

なっている。

事業実施者の一部から、補助金の対象経費について基準が厳しいとの声があることについて、補助金は公金として事業趣旨に沿って適正に執行されなくてはならないことから、一定の制約があることが説明された。意見交換において、今後の事業の運用、推進にあたって、中高生を含む若い世代の活用に向けて、特に教育関係等に対して、分かりやすい説明をしてほしい。また、補助対象経費の拡充等について検討課題としてほしいということを委員会の意見として所管課に伝えた。

産業厚生常任委員会

調査事項

地域経済の振興について

【調査の経過と報告】

本件は、今年6月開催の出前会議で意見交換された

テーマのひとつである、地域経済の振興について所管事務調査を行うこととして、提出資料に基づき所管課の説明聴取を行った後、質疑及び意見交換を行いました。財務担当からは、入札、契約制度について説明が行われた。

地方公共団体における調達は、その財源が税によって賄われていることから、より良いもの、より安いものを調達しなければならぬ。そのため、競争性、透明性、経済性において優れた一般競争入札を原則とするが、この原則を貫くと調達の準備に多くの作業や時間がかり、当初の目的が達成されないなど弊害が生じる。このため、指名競争入札や随意契約が例外的な扱いとして認められている。

また、地域の活性化の観点から、地元企業が受注し地域貢献すること求められる。契約事務あたっては、町内事業者の優先指名、適切工種の細分化によって「受注機会の確保」に努めるとともに、「経済性の確

保」に向け、早期発注・早期支払の励行に留意している。今後の検討課題としては、中間前払い制度、工事成績評定制度の導入などがあげられていた。

経済担当からは、中小企業の振興の状況と対策について説明が行われた。

町内の商工業は地域経済地域社会における役割や機能において非常に重要でありながら、資金調達力の弱い小規模経営が大半を占め、消費の都市への流出傾向に歯止めがかからず、厳しい経営状況になっている。

地域内の産業・企業に関する状況把握、町としての責務、商工業者の努力と役割、町民の理解と協力といったそれぞれの役割を明確にした商工振興策を商工会と連携しながら検討する必要がある。

また、「むかわ町中小企業振興融資制度」の活用や、経営相談を行い経営健全化に取り組んでいる。

まちづくり計画の具体的な展開として、地域産業多角化推進事業では地域が一

体となって取り組むことで地域力が底上げされ、新たな地場産品の創出が期待される。

質疑の後、意見交換を行い、町政に反映する意見は特になく所管事務調査を終了した。



穂別地区ニサナイの生きがい健康まつり

調査事項 災害廃棄物の 処理について

【調査の経過と報告】

平成23年3月の東日本大震災により大量の災害廃棄物が発生し、被災地域で処理しきれない災害廃棄物の広域処理に苦小牧市が受入を表明したことに端を発している。5月下旬、苦小牧市から岩手県宮古市の木質系がれきの処理を検討していることについて、近隣自治体（胆振東部4町）に対し説明が行われた。

災害廃棄物については、放射能汚染や汚染物質の処理による周辺地域への影響が危惧されることから、委員会としても、基幹産業である農業及び水産業への、とりわけ風評被害を含めて、何らかの影響を受ける可能性があることとして所管事務調査を開始したものである。

平成23年9月、環境省による「災害廃棄物の広域処理体制の構築に関する調

査」が開始し、11月には「災害廃棄物の受入状況調査」が始まった。平成24年3月には各都道府県に対し、国からの協力要請となった。

その後、災害廃棄物推計量の見直しが行われる中でも受入量は不足していたため、引き続き広域処理の推進が行われてきたが、8月7日、「災害廃棄物の処理工程表」の改定が行われ、岩手県の木質系がれきについては道外他県での処理調整とされ、苦小牧市の受入はなくなったことが報告されたため調査を終了した。



穂別市街地の物置に現れたクウモリ

親しまれる議会 広報を目指して 議会広報研修会

8月23日、札幌市で全道町村議会広報研修会が開催され、議会広報委員7名事務局一名が参加しました。

本年の講師は(株)ジェイクリエイト城市創氏。

初めに「住民の関心、意識の高まりに応える・より住民に近い議会を実現する・議会の幅広い活動を理解してもらう」などの議会だよりの基本的な発行意義について話され、そのためには、「報告」より

「議論」を重視する、より住民の立場に立つて編集する、など編集の原点は読者（住民）であるという助言がありました。また、12町から出された議会広報へのクリニックが行われ、編集に当たっての留意点などの説明を受けました。

**議会を傍聴しませんか。
次回は12月13日から開かれる
予定です。**

場 所 産業会館 第1会議室 3階
時 間 午前10時

議会とはどなたでも傍聴できますので
一般質問や議案審議の様子を皆さんの
目と耳で感じてみませんか。

詳しくは議会事務局へ

TEL 42-2486
FAX 42-4994



メタセコイアの並木道

編集後記

今年の夏は、観測史上にない猛暑で、9月になっても残暑が厳しい夏でした。

町では8月末、むかわ町まちづくり委員会による、「むかわ町まちづくり基本条例」について答申を受けて、条例の制定を進めています。

まちづくり計画を進める上で、基本的なルールが必要と考え、条例を制定するものです。

考え方は、「町民参加と協働のまちづくり」地域のことは地域に住む住民自らの責任で物事を決めていくこと。

まちづくりの理念や行政運営の基本原則を定めるとともに、地域の課題やまちづくりに関して、町民と行政などがどんな役割を担い、どのような方法で取り組んでいくかを明らかにした条例です。

町民・議会・行政が一つになり「この町に住んでよかった」と思えるまちづくりを進めましょう。

議会広報委員

山崎 満 敬